# 文教民生委員会　行政視察調査報告書

1　視 察 日　　2019年５月15日（水）～17日（金）

2　視 察 先　　〇秋田県男鹿市
調査事項　　・おがっこネウボラの取り組みについて

〇青森県八戸市
・八戸ブックセンターの取り組みについて

3　視 察 者　　委 員 長　竹 中　　理
副委員長　上 田　倫　久
委　　員　青 山　憲　司
委　　員　井 上　正　治
委　　員　上 田　伴　子
委　　員　木 谷　敏　勝
委　　員　土生田　仁　志
委　　員　松 井　正　志
当　　局　幸 木　孝　雄（地域コミュニティ振興部長）
議会事務局　木 山　敦　子

男鹿市：おがっこネウボラについて説明を聴く委員

男鹿市議場にて

八戸市：市営の本屋＆カフェ！青森ゆかりのドリンクやアルコールを飲みながら自由に閲覧を！

| | |
|---|---|
| 日　　時 | 2019 年５月 15 日（水）　午後 3 時 00 分～午後 4 時 10 分 |
| 視 察 先 | 秋田県男鹿市 |
| 調査項目 | おがっこネウボラの取り組みについて |
| 調査内容 | ○設立に至った背景・経緯について<br>○概要（運営形態）、特色について<br>○予算、人員配置について<br>○「おがっこネウボラ」ＷＥＢの管理運営、反響について<br>○年間相談件数と支援数について<br>○今後の課題について |
| 所　　感 | **【設立に至った背景・経緯】**<br>男鹿市の近くに産婦人科がないことが背景にある。消防署と連携し、「ママ・サポート１１９」を作り、緊急搬送などの仕組みを構築している。<br>【概要（運営形態）特色】<br>男鹿市独自に妊娠・出産・就学時まで、お母さんの困りごとを解決、支援する仕組みである。<br>母子保健コーディネーターを中心に、保健師、助産師、臨床心理士などが一つになった支援チームのワンストップ窓口である。<br>**【予算、人員配置】**<br>市が予算組みをしているのは保健師、助産師、臨床心理の人件費<br>**【「おがっこネウボラ」WEB の管理運営、反響】**<br>ポータル支援 WEB サイトを設立し、情報提供やお母さんたちの交流の場を提供している。運営は男鹿市健康子育課、管理は外部運営である。<br>お母さんたちに好評であり、便利なツールとして利用されている。<br>コミュニケーションの場として「悩み事」などを同じ立場で共有しあい第３者も見ることができ、子育てのマニュアルのようなものになっている。<br>**【年間相談件数と支援数】**<br>相談件数：538 件/年、支援数：984 件/年<br>**【今後の課題】**<br>子育て世代の人口は減ってきているが、引き続き運営することの重要性<br>**【所感】**<br>「おがっこネウボラ」の強みはなんといっても養育者とのつながりによる情報量の多さである。<br>妊娠の届け出から始まる支援者との接点を多く設けることで養育者と子どもを支えていく仕組みが構築されている。<br>特徴的なものとして、「ママ・サポート１１９」がある。消防署と連携し登録した方をつなぎ、緊急連絡時には迅速な搬送対応ができる。<br>また、お母さんたち同士が気軽に WEB でコミュニケーションがとれるのも大きな特徴である。 |

| | |
|---|---|
| 日　　時 | 2019 年５月 17 日（金）　午前９時 00 分～午前 11 時 00 分 |
| 視 察 先 | 青森県八戸市 |
| 調査項目 | 八戸ブックセンターの取り組みについて |
| 調査内容 | ○ブックセンターの設立に至った背景、経緯について<br>○ブックセンターの概要（運営形態）、特色について<br>○年間予算について<br>○１日の来場者数、年間の来場者数について<br>○実施によって得られた結果と地域住民への影響について<br>○ブックセンターの目指す方向性について<br>○今後の課題について |
| 所　　感 | **【ブックセンターの設立に至った背景、経緯】**<br>市長の政策公約「本のまち八戸」がきっかけであり、市長の人脈によるコーディネーターの人選で始まった。<br>**【ブックセンターの概要（運営形態）、特色】**<br>乳幼児（生後 90 日～１歳未満）とその保護者を対象とした「ブックスタート事業」、小学生を対象とした「マイブック推進事業」。<br>３歳児とその保護者向けに新たに創設した「“よみきかせ”キッズブック事業」に続く、大人を主な対象とした施設である。<br>また、八戸ブックセンターは中心市街地の活性化に寄与するとともに、市民の豊かな心を育み、本のある暮らしが当たり前となる文化の薫り高いまちを目指すため、本と出合う新たな機会の創出、本をとおした市民交流およびまちづくりの拠点としても位置付けられている。<br>**【年間予算（平成 31 年度当初予算）】**<br>《歳出》①人件費約 36,500,000 円（正職３名、嘱託３名、臨時１名）<br>②物件費約 59,000,000 円（主なもの：企画事業費、管理運営費）<br>《歳入》①販売収入約 15,400,000 円（書籍、雑貨販売収入）<br>②使用料約 500,000 円（ドリンクスタンド使用料）<br>**【１日の来場者数、年間の来場者数】**<br>来館者数は、１日平均、449 人。売り上げ冊数は 29 冊。売上額は、書籍が 42,794 円。雑貨が 2,505 円。ドリンク 3,181 円。合計：48,480 円<br>**【実施によって得られた結果と地域住民への影響】**<br>来館者数、企画事業の参加者数、書籍等売上額の推移、多様な関係機関との連携があげられる。<br>**【ブックセンターの目指す方向性と今後の課題】**<br>文化力の向上・中心市街地活性化等の事業の継続による効果の創出を図る。<br>課題としては、若者の利用促進や幅広い市民の利用を展開する。 |